

赤磐商工会経営発達支援計画特別審議会 議事録

委員会等名	赤磐商工会経営発達支援計画特別審議会
開催通知	平成31年3月22日
開催日時	平成31年4月12日（金曜日） 13時30分 ～15時00分
開催場所	山陽産業会館 2階会議室 （赤磐市下市357-7）
出席者氏名（出席者数13名）	
（委員）金谷征正（会長） 花房満（副会長） 中原哲哉（副会長） 相浦正明（筆頭理事） 笹埜洋一（筆頭理事） 大崎文裕（赤磐市 商工観光課課長） 末藤祐一（赤磐市商工観光課主査） 高城幸治（岡山市産業振興・雇用推進課 課長代理） 三宅康弘（岡山県商工会連合会サポートセンター次長） 大賀隆裕（岡山県商工会連合会嘱託専門指導員） （事務局）竹並支援課長・原地支援2課長・高森支援課長補佐	

会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 審議事項 ① 平成30年度の経営発達支援計画の実施状況 ② その他 4. 意見交換 5. 平成31年度の経営発達支援計画の方向性 6. 閉会
------	--

内容

<p>■ 審議事項及び審議の結果</p> <p>定刻の13時30分となり、事務局竹並が開会を宣し、金谷商工会長が本日の参集についてお礼を述べ、慎重審議を依頼した。次に参加者が自己紹介を行った。</p> <p>1、平成30年度経営発達支援事業の実施状況</p> <p>事務局竹並は、当事業の概要について説明を行った。</p> <p>次に事務局高森は、平成30年度経営発達支援事業について、資料に基づき以下の内容を説明した。</p> <p>・経営発達支援事業</p> <p>（1）地域の経済動向調査に関すること</p> <p> ア、地域経済情報の調査、整備、提供数</p> <p> イ、中小企業景気動向調査</p> <p> ウ、会員アンケート調査の結果</p> <p>（2）経営状況の分析に関すること</p> <p> ア、各種計画承認、採択状況</p> <p>（3）事業計画策定支援に関すること</p> <p> ア、事業計画策定支援の目標と実績</p> <p> イ、講習会の開催実績</p> <p> ウ、マル経融資制度</p> <p> エ、5S活動セミナー、集客の達人養成塾、儲かる仕組みづくり勉強会、海外販路開拓支援</p>
--

- (4) 事業計画策定後の実施支援に関すること
 - ア、事業計画フォローアップ件数の目標と実績
 - イ、専門家派遣事業の活用による専門的経営支援
- (5) 需要動向調査に関すること
- (6) 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること
 - ア、アグリ情報発信、展示会当の情報発信等の目標と実績
 - イ、人材育成推進事業
- (7) 地域経済活性化事業
 - ア、赤磐ブランドの推進事業
 - イ、赤磐産品展示即売会

事務局竹並が、事業報告について何か質疑はないかと出席者に諮ったところ、以下の発言があった。

赤磐市大崎氏「地域経済情報の調査、整備提供の実績が「0」なのはなぜか？」

事務局竹並「1年目はできたが、2年目は実施できなかった。今年度は仕組みを作って、フィードバックまで行いたい。」

赤磐市大崎氏「展示会の内容、手応えはどうだったか？」

花房副会長「アジアに比べて、ヨーロッパは距離的な問題で展示会に出ること自体難しい。中でもフランスは日本食や酒などに興味があるので、今回の取り組みが販路開拓の第一歩になったと考えている。5日間で25万人の来場がある。展示会に参加しても結果はすぐには出ていないが、商工会が場の提供を行うことで今後の結果に繋がる。また、フランスに行ったことは県内商工会でも珍しいことであり、他の商工会会員も興味を持っている。」

岡山市高城氏「資料内に『日本にフランスから招く～』とあるがどういった意図か？」

事務局高森「専門家の坂根氏の言葉である。日本から行くだけではなく、現地から来てもらって、シェフやバイヤーに商品が生まれるストーリーや地域性などをPRする方が効果的ではないか？といった意味である。」

事務局原地「単に展示会に出るだけでは難しい。1企業で販路開拓をするのではなく、地域をPRしなければ、ストーリーが伝わらないことがわかった。」

県連大賀氏「『効果』の商談件数カウント数は、成約があつてのカウントか？」

事務局高森「ブースに来て、話をしたら1件とカウントしている。」

笹埜筆頭理事「伴走型小規模事業者支援事業は2年目を終えたが、1年毎に補助金申請をするか？」

事務局原地「そのとおり、単年度申請である。」

笹埜筆頭理事「2年目までに商談会やセミナーをしてきたが、3年目は補助金が下りるかわからない。3年目の事業計画はできているか？」

事務局竹並「現在検討中である。単年ごとに流れが変わるので、その都度ニーズに合わせて計画を練っていきたい。また、商工会は場を提供することが大切だと考え、今年度は『スーパーマーケットトレードショー』に1枠取ることを中央会にお願いして確保したい。」

事務局原地「5Sについては、成果も出ており、継続支援を行い、成功事例を作る。さらに新規事業所の募集も行う。また、今年度は集客の達人養成塾の継続版を行い、WEBとチラシの実践的なセミナーと個別指導を行い、持続化補助金などに繋げたい。今年度の経営発達支援事業の3本の柱は『展示会』『5S』『集客の達人』と考えている。」

笹埜筆頭理事「補助金があるときだけ集まるのではなく、年1回は情報交換をしたい。」

事務局原地「毎年8月には岡山市とは情報交換の場を設けている。赤磐市とも調整中である。」

金谷会長「どの団体もお金がないから助け合って事業をやっていけたらいいと考える。」

岡山市高城氏「岡山市の災害対応対策（持続化、小規模な設備投資など）の対応に商工会も尽力して

いただいていることの感謝を述べた。

相浦筆頭理事「フランス出展については、全国でどれくらいの事業所が参加したのか？」

事務局高森「45事業所の参加があった。」

相浦筆頭理事「すべて商工会単独の出展か？」

事務局高森「多くの企業はジェットロ経由である。赤磐商工会もジェットロさんの枠で参加した。」

副会長花房氏「ジェットロの対応は非常によかった。親切丁寧で、海外でも安心できた。」

相浦筆頭理事「商工会がそういった場を提供することを他の会員さんに大々的にアピールするべきである。」

花房副会長「今後アピールしていきたい。また、言葉の問題もジェットロに聞けば解決できた。」

金谷会長「弊社にも研修生が来ているが、外国人がどういったものをお土産にしているのか、今後注意してみたい。」

花房副会長「弊社では、IPUの経営学部の外国人留学生が酒蔵見学などに来たことから、日本の文化に興味があるのではないかと思う。」

事務局竹並は他に質疑がないか出席者に諮ったところ、特に発言はなく、審議事項「平成30年度経営発達支援計画の実施状況」については以上であることを説明した。

続いて、意見交換と平成31年度の経営発達支援計画の方向性について、県連三宅氏に説明を求めた。

県連三宅次長「事業計画策定について、今は県連としても申請数よりも質(内容)の方を重要視しています。売上がいかに上がったか？集客数がどのくらい増えたか？など、把握できる範囲でフォローアップできる仕組みを作ってもらいたい。」

事務局竹並「今までフォローアップができておらず、これが課題と考えている。今後体制を整え『アンケート結果』にある、現在会員満足度62%をアップさせたい。」

岡山市高城氏「事業承継支援はどういった状況か？」

事務局原地「岡山県のネットワーク事業でやっていく予定である。」

笹埜筆頭理事「赤磐ブランドはどうなっているか？」

事務局竹並「経営発達支援計画に入っている。10年が経過し、昨年の検討会議を踏まえ今年度見直しを予定している。」

笹埜筆頭理事「HPはどうか？」

事務局原地「商工会のHP見直しについては予算が割けない。ネックは個社PRのページを商工会HP内にあることなので、ビジネスモールなどの運用を考えている。」

金谷会長「2名の課長が来て、当会も経営改善に取り組んでいる。」

花房副会長「お金を使わず、掲載できるものがある。例えば『Tモール』販路開拓に繋がるのではないか？」

事務局原地「本会会員はローカルビジネスが多い。今はスマホの普及でHPは関係ない、と言ってられない。しっかり情報発信が自らできる方法をセミナーで伝え、提案していかなければならない。」

事務局竹並は、持続化補助金の現状について県連三宅次長に回答を求めた。

県連三宅次長は、持続化補助金の概要を説明し、「公募開始時期は5月中位である」と説明を行った。

県連大賀氏「事業計画書の書き方は、『現在の状況よりも市場の変化で新たな課題が出た。その課題を解決するために新たに新規事業を実施する』などのストーリーが大切であり、ストーリーの一貫性と実現可能性の両方が必要である。」

事務局竹並は、他に何か質疑はないかと出席者に諮ったが、特には無く、以上で本日の赤磐商工会経営発達支援事業特別審議会の議事は全て終了したと宣した。

最後に花房副会長が、閉会の挨拶を述べた。時に15時00分であった。

以上